

## 愛知医科大学アーカイブズ（2011年度業務概要）

2011年4月、本学アーカイブズ（AMUA）は発足4年目を迎えました。大学文書室として設置されたのちアーカイブズに改称されたこの3年間、いわゆる準備期間としての体制づくりや既存資料の初期整理作業等に着手してきました。これらの作業もようやく一つの節目を迎える段階となり、この4月からは保存資料の活用（公開）に向けた具体的な取り組みを行うこととなります。以下、その概要を紹介します。

AMUAでは、現在および将来の利用者に対する説明責任（アカウントビリティ）を果たすために、本学の活動足跡を示す記録資料（アーカイブズ）を積極的に収集し、それらが有効に活用されるよう適正に管理することをめざしています。そのうえで、学内外の利用者にとって利用しやすいサービスを実現するために、当面は次の2点をめざす予定です。



### 検索ツールの導入

AMUAが提供するサービスの中で、最も基本的なものは閲覧利用サービスです。多くの図書館資料とは異なって代替資料が存在しないアーカイブズ資料の利用において、どのような資料が保存されており、どのような資料が利用できるのかという情報は利用者にとって何よりも重要な情報となります。

こうした情報を利用者へ提供する方法として、コンピューターを利用した検索ツールがよく利用されます。AMUAにおいても同様の方法が必要であると考えられますが、その際には、できる限り利用者の側からみた簡便性を考慮した検索ツールが望ましいといえます。

### 統合的目録の導入

AMUA がすでに現在保有している資料、さらに今後保有することになる資料には、さまざまな形態のものが含まれます。図書館資料に代表される印刷刊行物、博物館資料に代表されるモノ資料、そしてアーカイブズの本務的な資料である事務文書（現用段階を終えた法人文書）などがそれです。

一般的に、これらの資料は形態・性質に応じて個別に管理されるものです。AMUAでは、上述した検索ツールの導入との関連もあって、これら三種類の資料データを一本化した統合的な目録の作成を検討しています。